

熊本・徳永直の会会報

第51号

一つの節目

—三〇年をふり返る—

中村 青史

徳永直は一八九九年に生まれ、一九五八年に没した。亡くなって二十年という時に熊本に徳永直文学碑が建立された。一九七七年のことで、その時点でもそうであったが、二〇〇七年の現在でも徳永直の文学碑は日本に唯一基のみである。徳永直顕彰のための孟宗忌は文学碑建立の翌一九七八年に第一回を開催した。第十回孟宗忌は一九八七年で、熊本近代文学館では徳永直展のイベントを開催している。この時は直の次女道代さんの夫君である文芸評論家の津田孝氏が参加され、新日本出版社刊「徳永直集」Ⅰ・Ⅱ（日本プロレタリア文学集・24、25）を土産に持って来られた。十年前には地元熊本で「徳永直短篇選集」を刊行したが、今回の出版で直作品をより多く読めるようになったと皆さんが喜んだ。更にこの第十回の折は、熊本県立図書館大会議室で、藤川治水氏の解説付きで「太陽のない街」の上映会も行われた。（会報第16・17号参照。）

第二十回孟宗忌は一九九七年で、この時は前年から会報（第33・34号）で盛んに呼びかけを行なっている。そして会報35号（一九九七・一）は20ページの特別号であった。当日のことは会報36号が伝

えている。その記事から引用すると、「一九九七年二月十五日（土）はあいにくの雨だった。だが何時になく多くの人が参加された。碑前祭、記念行事、偲ぶ会と延べ人数にすれば七十名ぐらいになったようだ。記念行事は最初に徳永直次女の津田道代さんの記念講話、父親としての直の一面が語られた。続いて、熊本朗読研究会の皆さんによる徳永直作品の朗読があった。①「冬枯れ」山田すみ子氏、②「太陽のない街」宮脇利光氏、副島孝一氏、③「最初の記憶」井芹美穂氏、池田さとみ氏、④「黎明期」森永浩子氏、矢部絹子氏、⑤「妻よねむれ」松尾大倫氏、池田義一氏によった。岩本税氏による「作品舞台のスライド」上映もあった。

一九九九年は徳永直生誕百年であった。会報第38号はその特集で小冊子の発行であったし、次号に百年祭の様子は報告されている。そしてこの年の三月で、中村青史が熊大を退官したので、直の会の拠点を失うこととなり、現在の北千反畑町五十一三 さろん・ど・漱雲に事務所を新設することとなった。ここは家賃や電話代も支払

第三十回 孟宗忌案内

日時 二〇〇七年二月十二日（月・休日）10:30～16:00

場所 ①10:30～11:30 徳永直文学碑前（泰勝寺入口）

②13:30～16:00 熊本近代文学館ロビー

内容 碑前祭（献酒・献花・経過報告・作品「最初の記憶」朗読）

講話と朗読及び特別展示（熊本近代文学館）

講話「孟宗忌30回を迎えて」（中村青史）

朗読「最初の記憶」「冬枯れ」「白い道」より（熊本朗読研究会）

特別展示 徳永直未発表書簡、単行本、遺品等

偲ぶ会 17:00～19:00 坪井立町「鶴重」会費二千五百円

わねばならず、そのため会則も改め、会費も年三千円としたが、会計はいつも苦しい。会報34号で中村はこう記している。「二十回とすることは、案外むづかしいことではないのかも知れない。各種頭彰会なるものは、大体四、五十歳代の人が始めるものである。で二十年ぐらいいは、すすいといと進む。だがその先が問題である。世話人の高齢化をどう若手に継承するか。第二十回孟宗忌に取り組むに当って、そのことも火急のことと言わねばなるまい」と。

それから十年が経った。その間に世話人の有力メンバーが次々に亡くなったり、再起不能の病に倒れた。第三十回孟宗忌は、人手不足と先行き不安の中で迎えることになる。来年の徳永直没後五十年祭のこともある。その時こそは懸案の徳永直作品集全八巻の刊行を思っていたが、情況はきびしく、少なからず不安になってきている。それらはあるにしても、二月十二日(振替休日)は第三十回孟宗忌である。節目であることに変わりはないので、何とにもにぎやかに挙行したいものである。

会報創刊号に見る第一回孟宗忌

—岩本税氏の記事より—

徳永直没後第二十回目の命日にあたる去る二月十五日午後五時半から、熊本市黒髪立山登山口にある「徳永直文学碑」前で、二十数名の関係者が集まって第一回孟宗忌を開いた。

徳永直の命日を「孟宗忌」として毎年何らかの会を催すことについては、昨年二月十二日の文学碑除幕式およびその日の祝賀会の席上で予備提案されていたのが、去る二月八日の徳永直文学碑をつくる会の解散総会で正式に承認されていた。そして、「孟宗忌」とい

う名称については、作品「最初の記憶」に、孟宗竹で箸作りをする貧困労働者の描写が印象深いことと、徳永直文学碑が建てられた場所が、うつそうたる孟宗竹林の一角であることから名付けられたものであった。

孟宗忌の二月十五日は、午後から急に寒波が襲来して底冷えのする北風が吹きまくるきびしい冬日和だったが、徳永直に心を寄せる親類縁者、近代民主文学研究家、知人、学校教師、文学碑建立よびかけ人、地元熊大学生、革新政党代表者など各種各層の人々が参集して盛会だった。

元文学碑をつくる会事務局長の高光義明氏よりこの日に至る経過報告につづいて、熊大教育学部三年生竹下真紀さんの作品朗読、作品「冬枯れ」冒頭部の一節によって徳永文学をたたえるときともに故人を偲んだ。またこの席上で、徳永が生前黒髪町坪井在住当時に、同じ町内に居住して徳永に心をひかれ、その活動を支援した前田市次郎氏から、昭和十年代のきびしい思想弾圧下に、徳永が当局の追求をのがれるために立田山中に身をかくしたこと、その徳永に家族や知人たちがこつそりと差し入れをしていたことを紹介されるなど、初めて公開された事実だったので参会者一同感動した。最後に、徳永直の従弟にあたる清水町在住の宮崎政喜さんの謝辞をうけ、一同盃を交わして来年の再会を誓いながら散会した。

さらに当日は午後六時半から会場を「養老の瀧」子銅店に移して、熊本大学中村青史助教授が「熊本における徳永直」と題して、熊本市およびその周辺における徳永直文学地図の解明を行った。この会にも十八名が参加したが、中には案内状も出してないのに熊日の小さな予告記事をみて来た、という女性の方も見えた。その会では、

すでに文学碑をつくる会は解散されたが、さらに徳永直の文学作品を広めるとともに民主主義文学の発展をはかろうと、「熊本・徳永直の会」を新たに発足させることを満場一致で決めた。

今後徳永直文学碑はどうなるのか

二〇〇一年四月のことであった。徳永直文学碑を取り除いて欲しい、との不動産業者からの申し入れがあつたのは。最初の業者は紳士的に話に応じてくれていたが、その間熊本市とも話し合ったが埒があかずしているうちに転売された。次の業者はいきなり背景の竹林と大木を伐り倒してしまった。そこが風致地区というのに。そのうちにまた転売された。そして今度の業者は、地元住民を集めて墓地公園にするからと説明し、文学碑はそのまま残すと言った。だがその図面を見て驚いた。文学碑の本体だけを残すことになつていた。その後のその業者の動きはつかんでいない。無気味な沈黙が続いている現況である。ところで本会としては、熊本の前市長に陳情書を出し、やがて交代があつたので現市長にも同様な陳情書を提出した。五年の歳月が流れたが、何の反応もない。ここにその陳情書を公開して会員諸氏のご意見をいただきたい。

陳情書

熊本市長殿

平成十三年

熊本・徳永直の会は、一九七七年（昭和五二）二月建立以来の徳永直文学碑の存続について、その善処方を陳情申し上げます。

熊本・徳永直の会及び徳永直文学碑建立のいきさつにつきましても、別紙資料をご参照ください。

本年四月突如、文学碑を移してくれないかとの話がありました。土地を無料提供してくださつていた地主の、倒産による売却のためということでした。直の会としましては、毎年徳永直の命日あるいはそれに近い二月の日に、孟宗忌を営んでまいりました。孟宗忌の由来は、碑の背景が孟宗竹山であつたこと、徳永直は家業を助けて小学校就学前から、孟宗竹を材料とした竹箸作りをしていたことからの命名です。孟宗忌の名称及び徳永直文学碑の位置が熊本市立田山山麓ということは、日本全国の文学関係機関及び諸刊行物に周知されている現実であります。

従つて、何とか現在地に保存できないものかと各方面とも相談をいたしております。その中で、あの土地を、「熊本市文学碑の森公園」としたらいかがなものであろうか、との話が出てきました。すでに徳永直の文学碑と安永信一郎の歌碑もあるわけで、すぐ近くには寺田寅彦が下宿していたお宅もあり、寺田寅彦文学碑も建てられようし、小泉八雲ゆかりの石仏の近くでもあり、八雲文学碑だつて可能ではないか、そのほか立田山を描いた作品は多いわけで、諸々の文学碑が建ち並ぶ森の公園は、必ずや熊本市の一名所になるであろうということです。

熊本・徳永直の会としまして、そのような「文学碑の森公園」ができれば、望外の喜びであります。熊本市内だけでも百名餘の会員を擁する会としまして、公園として熊本市の運営管理として頂くよう陳情申し上げます。次第であります。



2006年度 決算書 2006年1月～12月(単位:円)

収 入		支 出	
会費納入	159,000	事務所家賃(15,000×12ヶ月)	180,000
(一般年会費 3,000×53口)		通信費(電話代)	39,248
特別会費	100,000	" 切手、葉書代	26,280
(特別年会費 10,000×10口)		会報発行 No.50(特集)	96,400
寄 附	26,000	孟宗忌	17,915
前年度繰越	336,196	会費間違入金の返金	1,000
		事務用品費	4,294
		小 計	365,137
		定額貯金	200,000
		次年度繰越	56,059
合 計	621,196	合 計	621,196

2007年1月20日

上記に相違ありません。 会計監査

西田光子
中塚 隆子

会費納入者(二〇〇六年一月～十二月)

特別会員(一万円)

井上 栄次 岩本 税 上野美恵子 奥山 文幸 金野 文彦
 國米 真市 杉野 健一 高光 協三 中村 青史 丸山 幸子
 一般会員(三千元)

芦澤 峰子 池田 義一 泉 滋 岩下 恵治 上野 桂子
 植村 勝明 浦田 義和 岡崎 信五 緒方 明子 緒方 直臣
 海津 広子 梶原 定義 菊川 有臣 木村 一信 吉良 初
 久保 整子 熊懷 友春 上妻 四郎 沢田 博行 島寄 信子
 下城 正臣 下川 浩哉 瀬口 賢一 平 晋一郎 高田 隆子
 高光 睦子 竹田 勉 千葉 昌秋 柘植 周子 寺岡 葵
 寺沢 孝子 寺田 正 中田 幸作 永田 満徳 中野紀美子
 西川 悦子 西田 光子 平岡加久子 福島 明子 益子 薫
 光岡 達之 宮崎 啓子 宮崎 静夫 三吉 輝史 弥上 是子
 八浪 哲郎 吉岡 恭子 吉田 精一 渡辺 秀利 広島 正
 小崎 太一 坂本美津子 米原 尋子
 寄附者
 大野 正美 金野 文彦 木村 一信 高光 協三 千葉 昌秋

事務局だより

▼第三十回孟宗忌は盛大にやりたい。でも準備不足だ。呼び掛けも不徹底だ。私の多忙のせいである。徳永直に申し訳なく思う。
 ▼徳永直の作品集は是非出したい。力強い助っ人を募集する。

熊本・徳永直の会 熊本市北千反畑町五―一三 さろん・ど・漱雲
 〒八六〇―〇八五五 TEL・FAX〇九六一三四三―〇〇七二
 郵便振替 〇一九四〇―二一一一四九八